

## 令和8年度第1回瑞浪市地域公共交通協議会 会議録

会議の日時	令和8年5月18日（月）14時00分
会議の場所	瑞浪市役所 2階大会議室
出席委員	出席委員 18名 正村 和英委員、磯部 友彦委員、石野 栄一委員、高柿 弘義委員、 渡邊 誠二氏（代理）、平田 宏保委員、牧村 潤一委員、中島 喜久夫氏（代理）、 藤田 明博氏（代理）、羽柴 百合氏（代理）、山田 和洋委員、水野 美智也委員、 成瀬 貴之委員、可知井 大三委員、藤本 敏子委員、廣瀬 浩一郎委員、 小木曾 昌弘委員、中村 恵嗣委員 （欠席者：楠本 佳寛委員）
事務局	足立 寛聡、加藤 聖也、林 卓磨

### 1. 開会

### 2. 会長あいさつ

- ・副会長選任：磯部委員
- ・監査委員任命：山田委員、小木曾委員
- ・議長選出：磯部委員

### 3. 協議事項

#### (1) 令和7年度事業実績報告（案）及び決算（案）について

事務局

（資料に基づき説明。）

#### 【意見・質問】

質疑なし。

→承認

#### (2) 令和8年度事業計画（案）及び予算（案）について

事務局

（資料に基づき説明。）

#### 【意見・質問】

質疑なし。

→承認

#### (3) 瑞浪市地域公共交通計画の評価等結果（案）について

事務局

（資料に基づき説明。）

#### 【意見・質問】

質疑なし。

→承認

(4) 地域公共交通確保維持事業に係る事業計画(案)について

事務局

(資料に基づき説明。)

【意見・質問】

質疑なし。

→承認

(5) コミュニティバス車両の移動円滑化基準適用除外について

事務局・山田委員

(資料に基づき説明。)

【意見・質問】

石野委員

車椅子の方は、実際にどのくらいいるのか。

山田委員

事前に要望があって対応することは年間0件であり、数年に一度という状況。

車椅子の利用者については、ポンチョで対応できる。事前に要望があり、通行可能なルートであれば、この車両で対応する。ポンチョは現在3台あり、1日5コースで、普段は2台運行し、1台は予備車としている。

また、普段から車椅子対応できるように、適時乗務員の研修を実施している。

→承認

(6) 瑞浪市地域公共交通計画の更新について

事務局

(資料に基づき説明。)

【意見・質問】

質疑なし。

→承認

4. 報告事項

(1) 令和7年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について

事務局

(資料に基づき説明。)

【意見・質問】

質疑なし。

(2) 瑞浪市要介護高齢者通院支援事業について

事務局・藤本委員

(資料に基づき説明。)

## 【意見・質問】

### 議長（磯部委員）

申請方法は「窓口にて」ということで、移動が不便な方がどうやって窓口に来るのか。説明があったように、ケアマネジャーによる代行申請も可能ということによいか。

### 藤本委員

現在、ほとんどケアマネジャーが代行申請しているという状況である。家族の方が手続きされる場合もあるが、本人が直接来たことは一度もないと聞いている。

## 5. その他

### （陶町についての提案）

#### 可知井委員

陶町は急激に高齢化が進んでおり、瑞浪市が将来抱えるであろう問題を先取りしている場所という意味で先進地だと考えている。

ここ 33 年間で陶小学校の児童数は 333 人から 43 人になった。これは、子供が 7 分の 1 になったというだけではなく、若い世帯が 7 分の 1 になったということである。また、小学校は 6 学年のうちで 4 学年が複式となっている。

若い世帯の減少に対して私たちは何をすべきかを 2 つ考えた。1 つは、若い世帯が流出しないようにする。もう 1 つは、残された高齢者をどうやって守るかである。

1 つ目として、東鉄バス明智線の全線 200 円上限運賃制度を提案する。

瑞浪市は、広域バス運行維持補助事業として東鉄バス明智線の運行に補助をしている。しかしながら、明智線は輸送量が少なく、このままでは国の補助が受けられなくなってしまう可能性がある。このまま制度が変わらずに国の赤字分補助がなくなった場合、明智線の存続という問題にも関わってくると考えている。

輸送量を増やす取り組みとして、瑞浪市は 400 円上限運賃と高校生の定期券補助を実施している。定期券の購買が増えることは輸送量の増加に効果的であると思うが、便数が少ないことから、定期券を買うという方向になっていない。

そこで、既に 200 円上限としている恵那市と瑞浪市が協力をして全線 200 円という形にすれば、瑞浪から明智、明智から瑞浪へ通う高校生も使う数が増える。陶だけではなく、明智や山岡、濃南、瑞浪、稲津の高校生も利用することで、輸送量がかなり増えるのではないかと考えている。

陶町口から 590 円かけて瑞浪駅方面に向かっていたのが 400 円となり、その額が定期券代算出のもととなっているため、定期券代が大きく下がっている。これにより、公立高校への通学費用が私立高校の通学バス代と競争できる金額になっており、本当にありがたいことである。

一方で、全線を 200 円化することによって、明智の高校生も恩恵を受けることができる。

ただし、200 円化して高校生の定期券の半額補助をすると大きな財政負担になるため、高校生の半額補助はなしとする。これにより利用者数が増えれば、瑞浪市が赤字補填分として出している補助金が減る可能性もある。せつかく協議会の場があるので、予算を比較した上で検討をすることができるのではと考えている。

2 つ目に、私たちは高齢者に安心感を与える交通手段を作る取り組みとして、交通ボランティアを始めている。

2026 年 4 月の交通ボランティアについては、予約制で月曜日と金曜日の週 2 回、午前 8 時から午前 10 時までは、利用を希望される方の家から目的地まで送っている。午前 10 時から午後 1 時まではバロー陶店に許可を得て、買い物を終えたお年寄りの方で乗車希望の方をドアツードアで送っている。

実績について、令和 7 年の 6 月 20 日から令和 8 年 5 月 8 日までの間で、実施回数は 88 回、利用回数が 854 回、利用人数は 923 人である。

地区別では、バローのある猿爪＝猿爪の便は 525 回、水上＝猿爪については 207 回、大川＝猿爪は、猿爪の方がカーマに行くために利用されており 69 回、その他、恵那市の山岡からが 61 回となっている。

次に、実際に 100 円払ったら乗るのかと聞いているわけではないが、瑞浪市のデマンドと同

様の 100 円でも続けてほしいという方の利用について、この約 1 年間で 323 回あった。

時間別には、8 時から 10 時までが 11 人で 111 回、大半は 9 時 55 分のバローの開店の直前に申し込まれている。10 時から 11 時が 431 回、11 時から 12 時が 212 回であった。

民間の施設で市が実施することは難しい問題とと思っているが、陶コミュニティセンターで待機してもこの回数にはならない。バローという陶にとって大事な商業施設にいたためにこういっただけの結果になっている。瑞浪市のデマンド交通が、こういった形で工夫されると、安心して使っていただけのではないかと考えている。

それから、歩くことが困難なお年寄りの方が何人もバローに車で買い物に来ているが、その方たちに免許返納しませんかとは私たちは言えない。返納された後にボランティアがなくなったら、はしごを外すような形となる。免許返納して助成金がもらえることよりも、安心してこの後も買い物に行けるということの方が、免許返納に繋がるのではないかと考えている。

ただし、通院に関しては一切支援できていない。通院で困っている方がいることは把握しているが、陶町の中で送迎するというやり方であり、実際にどうやって支えていいかわからない。既に瑞浪市のレントゲン検査に町内の方を運ぶということはしている。今後は、瑞浪市と協力しながら高齢者の健診について、市外の病院に送迎できるような工夫をしたいと思っている。

そして、公共交通も、私たちが実施している子どもたちの学習支援も、陶のまちを守っていくという流れの中で考えていきたい。その中で、陶町の特性を生かして、少しでも困っている人たちや、守ってくれる若い人たちを支えていくことができれば、町を維持できるのではないかと考えている。

## 事務局

可知井委員から 2 つの提案があった。

1 つ目の 200 円上限運賃については、昨年度の協議会の中で 400 円上限という形で決定された事項である。この 400 円上限の考え方について説明させていただきたい。市の北部デマンド交通については 500 円という運賃で体系としている。そのため、例えば大湫から瑞浪駅までは 500 円の運賃である。

行政が運営する公共交通については、公平性が重要である。東鉄バス明智線を 400 円上限とすることで、東鉄バスで瑞浪駅から陶まで 400 円、そこからデマンド交通に乗って自宅の近くに行くまで 100 円の合計で 500 円となるようにしている。他の地域の運賃と公平となるよう金額設定をしており、陶町のみ 200 円とすることはできないため、ご理解いただきたい。

2 つ目のボランティアについて、地域において移動手段確保の取り組みとしてボランティアをしていただいていることについては、市としても非常にありがたいことであると考えている。

その一方で、道路運送法の許可を受けて、公共交通を担っているバスやタクシーなどの既存の交通事業者への影響についても、考える必要がある。今はボランティアという形のためそういった活動ができているが、今の体制でこの活動を継続することは困難であると考えている。また、市が実施するとすると交通事業者への影響が問題となってくる。

## 可知井委員

一昨年、私がこの場で提案したときに、鈴木委員から同様の説明を受けた。しかし、陶の人は瑞浪駅までは行けるが、病院に行きたい人たちは瑞浪駅から先がある。それについて、市内の 100 円バスを使えばいいと回答があった。陶町内からバス停まで 100 円で、瑞浪駅へ着いて、さらに市のバスに乗って 100 円となると、整合性という意味では、400 円ではなくて 300 円とすべきなのではないか。

また、長い目で見て東鉄バスを守ることが陶町にとっては 1 つの生命線である。東鉄バスが撤退したときに、瑞浪市が代替する時の金額を考えると、200 円バスによって恵那市と一緒に力を合わせて守っていくという新しい方策があってもいいのではないか。恵那市と協力して 200 円とすることが難しければ、明智線だけは 300 円で統一するというのを、県や中部運輸局の方たちが一緒になって、恵那市と瑞浪市で相談しなさいと提言いただくことも可能ではないか。

ボランティアについては、言われた通り、いつまでもやれるとは思っていない。

逆に言うと、資料を出ささせていただき、こういうやり方だったら費用対効果がもっと上がるのではないか、こういうやり方をすれば、地域住民の役に立ついい方法となるのではないかと提案している。

もちろんデマンドになり、バスより良いものになったと思っている。しかし、もう 1 つ進んでもらえれば安心して住民が暮らせるのではないか。

こうすべきと言いたいのではなく、相談をさせてもらい、それならばあと 2 年頑張れと。その間に瑞浪市で方法を考えるので、というような歩み寄りをしていただけると大変ありがたい。

#### 山田委員

同時に何台で動いているのか。

#### 可知井委員

同時に 3 台で、ボランティアが 3 人いる。

#### 山田委員

陶デマンド交通を運行している事業者として、可知井委員の資料を見て、デマンドでバローに行く方がほとんどいない理由で納得した部分がある。コミュニティバスのデータから、バローに行く人はそれなりにいると思っていたが、ボランティアに流れているとわかった。

ボランティアによって瑞浪市の支出は減っている。一方で、国の補助の対象である稼働率 30%には届かないということがある。

土岐市において現在 2 台で運行している AI デマンドについて、乗合率が悪いために、夏に 1 台で運行する予定である。このままでは国の補助が出なくなるので、1 台にするといった話である。この議論は、何台で運行するかが重要である。

1 つの意見として、恵那市は市内すべて 200 円上限となっている。また、通学について月 5000 円で市内全域が乗れるという仕組みでやっている。恵那市の財政は、おそらく瑞浪市の支出よりもかなり大きい金額で、非常に広い領域の中で 200 円と 5000 円というものがある。

ただし、恵那市は市を跨ぐと駄目ということになっている。こうしたことから、恵那市と瑞浪市が話をしても、200 円と 200 円で 400 円になると考える。恵那市も他の地域との公平性を考慮するためである。瑞浪市と恵那市において、この議論は既にされ、やらないこととなったと聞いている。

今の提案は面白いと思うが、400 円上限により高校生の定期券代が非常に安くなり、東濃鉄道が運行している他の地域の中では、おそらく一番高い割引率になっていると思う。まだ始まって 2 ヶ月の話であり、数字が出てきていないと思う。先ほどの話のように私立の高校生と大きく変わらない金額であり、明智線の陶までの区間に関しては、非常にお値打ちになっている。

便が減っているということもあり、難しいところではあると思う。

#### 可知井委員

例えば、瑞浪市のデマンドの路線から外れている方は、降車場所より 200~300 メートルの距離があり、30 メートル程度の高度がある方もおり、その方たちにとっては、デマンド交通は使にくい。

ボランティアをやめて、瑞浪市が請負ってもらえると、たくさんの方が 100 円で利用できることになる。今は、ボランティア活動が市のデマンド利用者数を減らすこととなっているが、市がその形をとってもらえれば、利用率は大きく向上するのではないかと考えている。

恵那市では、75 歳以上の高齢者が申請すると年間 1 万円のタクシー券がもらえる制度や、明智鉄道の定期代の補助をしていると聞く。ただし、高校生の通学定期に関しては、一切補助はしていないという話も聞いている。

それぞれ市独自の考えや、何を支えたいかに関わってくると思うが、できるだけ若い人たちが残ってもらうために負担を減らし、住みやすいまちとして移住してもらい、お年寄りを支えていきたいという理念がある。今は自分たちができることをしているが、それを瑞浪市が参考にしながらもっといいものを作っていただきたい。

自分たちがいつまでもボランティアをできるわけではないため、そうしていただけるとありがたい。

#### 山田委員

恵那市の 1 万円補助については、おそらくコロナ禍の時に、高齢福祉の観点からお出かけを

